

# 佐太小学校だより

令和7年10月31日 No.8  
守口市立佐太小学校  
校長 大井 昌幸  
住所：佐太中町6-11-51  
電話：06-6902-1171

## 2学期も後半に入りました！子どもたちは行事ごとに大きく成長しています！！

10月も終わりに近づき、秋の気配が色濃く感じられるようになってきました。年度の折り返し地点ともいえるこの時期は、子どもたちにとって、自分たちの成長に実感が持て、様々な活動に自信を持って取り組める時期になります。学習だけでなく、運動会などの行事に積極的に取り組んでいくことでさらに大きく成長できるものと思います。2学期も残り約2か月となりました。さらに充実した学校生活にしていきたいです。

### 修学旅行・林間学校に行ってきました！

修学旅行【10月16日(木)～17日(金)】、林間学校【10月23日(木)～24日(金)】に行きました。どちらも、天候に恵まれ、充実した宿泊学習となりました。どちらも、子どもたちは集団行動を意識した動き方ができ、さすが高学年だと感じました。学校ホームページに写真を掲載していますのでご覧ください。



(修学旅行)



(林間学校)



(佐太小 HP)



(佐太小ダイアリー)



(11月行事予定)

### 学力テスト・すくすくウォッチの結果について

4月17日(木)に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」と5年生と6年生を対象に実施された「すくすくウォッチ」の結果が戻ってきましたので、分析した結果をお伝えいたします。

本調査の結果については、今年度だけの状況ではなく、これまでの学年で培われてきた学力の状況に関わるもので、また、本調査によりわかるのは、学力の特定の一部分であり、学校教育活動の一側面に過ぎません。しかしながら、本調査より見えてきた課題については、日々の授業の結果を反映していると考えます。

本校では、課題解消に向け授業改善等これからも取り組んでまいります。各ご家庭におかれましても、裏面に記載の「家庭へのお願い」についてご一読いただき、ご協力をお願ひいたします。

### 令和7年度 すくすくウォッチ（小学生すくすくテスト）結果まとめ

- 1 調査の目的 ○子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これから社会を生き抜く力を着実につける。
- 2 実施内容 ○5年生:国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート  
○6年生:わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート  
○教職員:アンケート

### 国語（5年生対象）

各問題の結果分析を行ったところ、文中に出てくる助詞「て、に、を、は」について理解ができている児童が多く、正しく文章を書くことのできる力は概ね付いていることがわかりました。また、文中に出てくる言葉の反対語を答える問題でも正答率が高く、文章の正しい理解と語彙力が付いていることがわかりました。一方、2つの文章を1つにまとめるなど、文章の要約や書き換える力に課題が見られました。

### 算数（5年生対象）

算数の平均正答率は約70%で、大阪府全体の正答率より約2%高かったです。このことから、概ねどの領域も基礎的な理解ができる児童が多いことがわかりました。しかしながら、別々の2つの数量の関係について図を用いて比較し、一方の数量がどれくらい増えたのかを割合を用いて説明するなど、複合的な課題や割合の問題を苦手とする児童が多いことがわかりました。

### 理科（5年生対象）

理科の平均正答率は約60%で大阪府平均よりも正答率が1%高かったです。解答結果から、水が蒸発することや、水は高いところから低いところへ流れることなどの自然現象等について理解できている児童が多いことがわかりました。また、乾電池を用いた回路で、並列つなぎや直列つなぎなどについての正答率も高かったです。一方、温度計の正しい使い方や日なたと日陰の温度差について理解することに少し課題が見られました。

### わくわく問題（5・6年生対象）

【5年生】 平均正答率は66%で大阪府平均とほぼ一緒でした。どの問題も正答率が高く、また全体的に無回答率が低いことから、意欲的に課題に取り組めた様子が見られました。一方、自分の考えを文章にまとめることが、相手に伝える工夫をすることなどに課題が見られました。

【6年生】 正答率は大阪府平均よりも低かったものの、回答の状況から概ね意欲的に課題に取り組んでいる様子が見られました。読み取った内容を抽象化して考える力や表を使って分類する方法についてはしっかりと考えることができましたが、考えを記述して回答することに苦手意識を持つ児童が多いこともわかりました。

#### ※わくわく問題出題内容

- ・教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題
- ・文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等の様々な資料を題材としている。問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

#### アンケート結果から

##### 【肯定的回答の割合が高い質問】

- ・約90%の児童が「自分にはよいところがある」と回答している。
- ・90%以上の児童が「話し合いで友達の意見を最後まで聞いてる」と回答している。
- ・約90%の児童が「友達と協力するのは楽しい」と回答している。
- ・6年生の90%以上が「友達が困っているときには助け合う」と回答している。
- ・5年生の90%以上が「自分の得意・不得意を理解している」と回答している。



#### 【アンケートから見えてきた課題】

以上のことから、子どもたちの多くは概ね学校や家庭に安心感をもって、日々生活していることがわかりました。しかしながら、「困ったときに相談できる友達がいる」や「学んだことを普段生活で活用する」に肯定的に回答した児童の割合がやや低くことがわかりました。今後も、授業で身近なことを題材にするなど子どもたちの興味関心を高める授業づくりと、いじめアンケート等を通じて子どもたちの悩みをしっかりと把握・理解できる体制を作りたいと思います。